

いぶすき検定 第4回上級試験

(平成29年8月20日実施)【解答】

<記述問題>

1. 指宿の歴史

〔問題〕 次の説明中の空欄を埋めなさい。

〔1〕 指宿という地名は、平安時代の延喜式という古文書にはじめて登場するが、さかのぼる「律令残篇」には薩摩国13郡の記述がある。したがって、少なくとも **奈良** 時代には「揖宿郡」という地域があったと推定される。

〔2〕 いつごろから指宿にムラがつくられたかは明確でない。しかし、**水迫** 遺跡では、約1万5千年前の石器とともに竪穴式の建物跡や炉の跡、石器製作の作業場、道跡などが発見された。このことから、この遺跡は「集落のさきがけ」として注目されている。

〔3〕 開聞岳からわずか5^{キロメートル}の地点で発見された **慶固** 遺跡は、畑そのものが地下にパックされた遺跡だ。覆い被さった火山礫は、少なくとも4^{メートル}は積もったと観察される。畑を営んだ人々の集落は、開聞岳の直近にあるために、橋牟礼川などよりもはるかに早いスピードで埋没したと考えられる。

〔4〕 指宿の中世史のなかでひととき異彩を放っている人物は **指宿 忠篤** **又は(指宿 成栄)** だ。後醍醐天皇方についたり、足利尊氏方についたり、はたまた南朝方についたりとその動向は変わったが、「一城をもつ輩」として、時の政権から恐れられる存在であった。

〔5〕 指宿には湊(港)を中心とした豪商が多い。そのうち、天下にその名を知られたのが **8** 代濱崎太平次だ。彼は薩摩藩の財政再建にも大いに寄与した。

2. 指宿の文化

〔問題〕 次の説明中の空欄を埋めなさい。

〔1〕 開聞岳には多くの神話や伝説が残されている。その中でも大宮姫に関する伝説は、天智天皇とのかかわりを含む伝説で、南薩の歴史の面白さ・深さをわたしたちを感じ取らせるものがある。

〔2〕 指宿で正月に行われる子どもの遊びには貴重なものが多い。そのうちでも、尾掛に残るイシナトは、竹の弓矢を持って集まり、ダイダイを射る行事だ。射当てた子どもにはミカンが与えられるが、元来は、その年の吉凶を占う行事だったと考えられる。

〔3〕 成川にある南方神社には、14番もの貴重な神舞が伝えられている。慶安2年（1649）に舞われた記録があることから、すでに350年以上もの歴史をもっていることになる。

〔4〕 今和泉には安永9年（1780）生まれの袈裟子の孝女碑が建っている。孝女とは、親孝行の娘のことであるが、今和泉島津家第4代当主島津忠喬がこの行動を賞して建てたものだという。この碑は経年劣化のために摩滅してしまい、昭和7年に新たに建てられたと伝えられている。

〔5〕 指宿地域における伝統行事の一つである浜下りには、主として2タイプがある。1つは、神輿が氏子の住んでいる地域を通過して海岸まで行き、そこで神事をして帰るもの。もう1つは、神輿が氏子の住んでいる地域を回るご神幸そのものである。ともに、経費や神輿の担ぎ手などで存続に苦慮している神社が多い。

< 論述問題 >

3. 指宿の歴史

[問題]

明治維新後、政府の政策は着々と進められたが、士族の特権を奪われた人々は、大いに不満を募らせた。わが鹿児島県内も例外ではない。ついては、以下の語句をつかって、明治10年前後の鹿児島及び指宿の状況を250字程度で概観しなさい。

- (1) 遣韓使節派遣論争
- (2) 私学校並びにその分校
- (3) 国内最後の内戦
- (4) 忠魂碑 (招魂碑)

模範解答

明治維新を主導したのは薩摩藩だ。しかし、明治6年に遣韓使節派遣論争が起きるや、政府内は分裂状態となった。そうした中で決定された内容に不満をもつ人々は、一斉に政府の役職を辞職。西郷を中心とする人々も帰郷するとともに、後継者を養成する私学校並びにその分校を県内各地に創設した。しかし、政府による弾薬庫運搬問題が発覚。これを契機に、一気に政府への反発が表面化。鹿児島の人々は、「尋問の筋あり」として、対政府軍への武力進撃を開始。これが、国内最後の内戦・西南戦争となった。私学校党は、多くの犠牲者を出して敗北したが、その後、市内には戦没者を悼む忠魂碑 (招魂碑) が造られた。

<270字>

<テキスト101から102>

4. 指宿の文化

〔問題〕

指宿の大自然は、火山との関係を抜きには語れない。そこで、下記の語句を使って、指宿の自然を250字程度で概観しなさい。

- (1) 知林ヶ島の誕生
- (2) 縄文時代の後期には開聞岳が誕生
- (3) 「白いビーチ」、「黒いビーチ」
- (4) 初期白薩摩焼の原料陶土

模範解答

知林ヶ島の誕生は10万年前のこと。その後、3700年前の縄文時代後期には開聞岳が誕生した。面白いのは、開聞岳近くの長崎鼻を境にして、東側には「白いビーチ」が、西側には「黒いビーチ」が広がることである。前者は、池田湖の噴火時に積もった火砕流である。これが永年の間に砕けて白い砂浜を造った。後者は、開聞岳噴火時に形成された玄武岩が風化して黒っぽい砂浜になったものである。こうした激しい火山活動は、安山岩質の白っぽいカオリンという粘土鉱物をも造った。これが、初期白薩摩焼の原料陶土となったのである。

〈250字〉 〈テキスト13から14、28、30から32〉

5. 指宿の産業・経済

指宿は温暖な気候であることから、さまざまな産業に恵まれている。そのうち、下記の語句をつかって、指宿の産業・経済を250字程度で概観しなさい。

- (1) 指宿観光がメジャーになった
- (2) 「かごしまブランド」
- (3) 「本枯れ節」
- (4) 「砂むし温泉」

模範解答

指宿観光がメジャーになったのは、昭和30年代から40年代にかけてのこと。新婚旅行ブームが指宿に到来したのだ。日本の片隅にある指宿が、一躍「観光指宿」として名を高めたのである。農業という点では、ソラマメ、実エンドウがその品質を認められ、「かごしまブランド」として有名になった。製造加工業としてのカツオ節製造も盛んだが、その中でも「本枯れ節」の製造は全国の7割をも占めている。高級料理店でのダシ作りに評判がいい。また市内には、多くの泉源が散在する。その中でも、日本内外の人気を博しているのが海岸に湧き出る「砂むし温泉」だ。

〈250字〉

〈テキスト135、150、157〉